

(一社)和歌山県建築士会那賀支部情報部会・紀の川市合同防災勉強会の報告
「地域防災に向けた建築士の役割と可能性」

この6月15日(水)に那賀支部情報部会と紀の川市危機管理部と合同で、22名(建築士会から19名、紀の川市危機管理部から3名)の参加を頂き、防災勉強会を開催しました。

本年度の那賀支部情報部会の活動方針は「温故知新」で、活動内容の一つとして「他団体との交流を通じて見識を深める」をあげており、「過去の事例に学び、今、できることから考えよう」ということと、「喫緊の課題でかつ建築士の役割が重要である」という視点から標記テーマをとりあげました。また、実際に地域防災を担っている紀の川市危機管理部のご協力を頂こうということになり申し入れしましたところ、快諾をいただき今回の開催となりました。

勉強会は、以下の3部構成で行いました。

- ①支援活動の報告事例(建築士会)
- ②地域における防災・減災の取り組み(紀の川市危機管理部)
- ③災害発生時の建築士としての支援対応についての意見交換(車座形式)

まず冒頭に、「熊本地震」でお亡くなりになられた方々への哀悼の意をこめて黙祷をおこなひ、その後、建築士会から紀伊半島大水害豪雨(台風12号)、東日本大震災、平成27年9月関東・東北豪雨(鬼怒川決壊)を実際の調査に基づいてパワーポイントとYouTubeの動画を交えながら報告がありました。被害の正確な把握はもちろんのことではあるが、それよりもまず、被災者との接し方が重要であるとの報告がありました。



引き続き紀の川市危機管理部から、平成25年の台風12号と平成27年の台風11号による主に貴志川水系の水害時の取り組みについての報告がありました。平成25年の台風12号の時は縦割り行政の弊害が出た面もあったとのことでしたが、平成27年の台風11号の時は前例に学び、横の連絡も迅速になり素早い対応が出来たとのことでした。この様に前例に学びながら各部署の対応は着実に迅速かつ丁寧なものになってきているとのことでした。

この報告を聞いて私は、織物でいえば縦糸は着実に強く綺麗になっていると感じるとともに、完成品にするためには横糸の役目が必要とも感じました。

最後の車座形式の意見交換では、予定時間を越える中、防災・減災のために、土地や家の購入者にハザードマップの利用を啓発してはどうかや、り災証明の発行時に建築士も同行して判定すれば、被災者の不満や不安の解消になるのではなどの貴重な意見や提言がありました。



最後に、長時間にもかかわらず我々の質問や提言に真摯に耳をかたむけていただきました紀の川市危機管理部の皆さまに感謝申し上げます。今後、那賀支部情報部会としまして、いろいろな部署との交流や勉強会を通じて、一步一步充実してきた縦糸に横糸を通して強固な織物にするための横糸の役目を果たすべく活動していきたいと考えていますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

那賀支部情報部会 部会長 木村 文則